

【一中】防災とボランティアの日

以下の内容を放送で生徒に訴えました。

『阪神・淡路大震災は、30年前の1995年（平成7年）1月17日午前5時46分、兵庫県の淡路島北部を震源として発生しました。戦後初の大都市直下型地震で、神戸市などで、観測史上初めて震度7を記録しています。

被害は甚大で、死者は災害関連死を含め6,434人、行方不明者は3人、負傷者は4万3,792人にも上っています。約25万棟の建物が全半壊、ビルやマンションが倒壊するだけでなく、高速道路の高架橋が横倒しになるという衝撃的な光景も見られました。

今日はテレビなどで当時の状況や天皇皇后両陛下が参加された阪神・淡路大震災30年追悼式典の様子等が放送されると思います。

地震直後の現地で、被災者支援のボランティア活動に参加した人の数は1日平均2万人を超え、3か月間で延べ117万人とも言われ、この年は日本における「ボランティア元年」とも呼ばれるようになりました。今日1月17日を「防災とボランティアの日」と定められたのはこのためです。

その時から災害ボランティアを務められるようになったある高校の先生だった方は「人は人にしか救えない」という言葉を残しています。直接的に命を救う消防士や救急救命士の方だけでなく、希望を持てず落ち込んでいる人や悩んでいる人を救えるのも人しかいないという思いで活動した末にたどりついた思いが「人は人にしか救えない」ということだそうです。

第一中学校でも様々なボランティアに取り組んでいますが、人が大変な時にはその人を助け、自分が大変な時には人に助けてもらう。そんなことが自然にできる社会を目指していければと思います。少なくとも第一中ではそうあってほしいと思っています。

また、阪神・淡路大震災の起きた1995年にプロ野球のパリーグ優勝を果たしたオリックス球団の合言葉は「がんばろうKOBE」でした。大変な中でも、励ましあい、支えあって優勝したオリックスのように、皆さんも本当に大変な時に、励ましあい支えあうことが出来る人に、そしてそんな集団をつくることが出来るようになってほしいと思っています。』

ニュースが流れたときに話題にしてもらえればと思います。